



Fig. 3 (a) Yabuki and Matsu'ura (1992)のインバージョン法を用いて、GPS水平・上下変動成分(7月14,15日の平均値と17,18日の平均値の差)より推定した地震時滑り分布(黒コンター:単位cm)とその滑りベクトル(黒矢印). 大小の星印, 丸印は酒井(私信)によりDD法で再決定された本震, 最大余震, その他の余震の震央分布. 推定された最大の滑り量は約1.3m, 積算モーメントは 7.5×10^{18} Nmであり, Mw6.5に相当する. 赤のコンターは山中(2007)による近地地震波形インバージョンから推定された滑り分布. (b)本震に伴う水平変動. 黒矢印が観測値(誤差楕円は 3σ の信頼限界を示す), 白矢印は(a)で推定された滑り分布から計算された各観測点における変位ベクトルを示す. (c)本震による上下変動の観測値(黒棒)と計算値(白棒).